

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

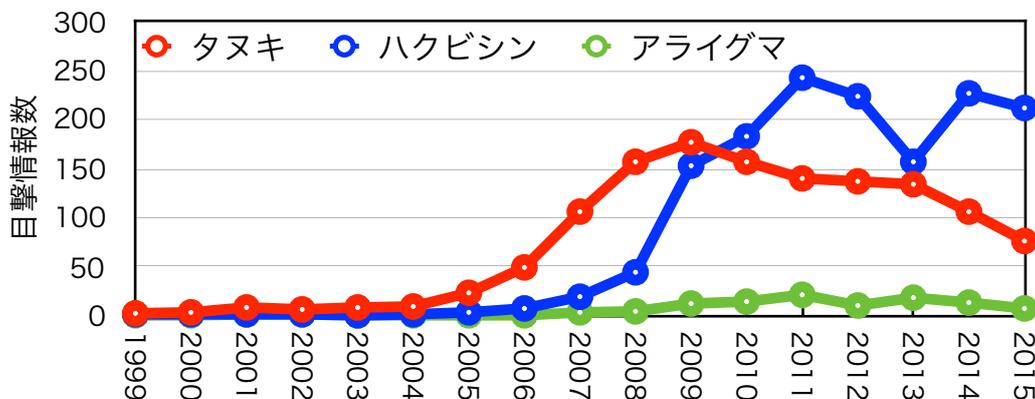
2016年2月号 通巻86号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2016

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

東京タヌキは減っているかもしれない

目撃情報数は6年連続減少



東京都23区での各動物の目撃情報数の推移。メール以外の情報も含まれる。情報収集のシステムが機能するようになったのは2009年以降であることに注意。それまでタヌキなどが生息していなかったのではない。

東京都23区に生息するタヌキは約1000頭であるというのがこれまでの東京タヌキ探検隊！の見解でした。この数字、下方修正しなければなりません。

減少は原因不明

上のグラフは東京都23区での毎年の目撃情報数の推移です。前半は目撃情報収集のシステムがうまく機能していなかった時期であり、信頼できる数字は2009年以降であるにご注意ください。

タヌキの目撃情報数は2009年をピークにずっと減少しています。これまでは「誤差の範囲内」ということで生息数が減っているわけではないとしてきましたが、さすがに目撃情報数が100を切ってしまうと本当に減少していることを認めざるを得ません。タヌキの生息数は約500～約1000頭と新たに推測をしています。

なぜタヌキが減少しているのか、その理由はわかりません。特に生息環境が悪化しているわけでもありま

せん。ひとつの仮説は「タヌキが駆除されすぎているのではないか」というものです。ハクビシンやアライグマだけでなくタヌキも駆除の対象になることがあります。タヌキは生息数を減らすほどに捕獲されすぎているのかもしれない。ただ、もっと被害が多く、駆除数も多いだろうハクビシンの目撃は減っていません。この仮説も確実なものではないのです。タヌキにいったい何が起きているのでしょうか。何やら不気味な感じがしないでもありません。

他の動物の推定生息数

タヌキ以外の動物についても見て行きましょう。ハクビシンの現在の推定生息数は約1100～約1800頭。タヌキよりも多く生息しているのは確実です。ハクビシンは以前よりも報道で取り上げられることが増えてきました。そのため近年生息数が急増しているように思われがちですが、上のグラフからは爆発的に増加しているのではないことがわかります。

生息分布も既に23区全体に広がっており、今後何倍にも数が増えることはないと考えられます。

アライグマの生息数は数十頭から100頭前後。こちらも急激に数が増えている様子はありません。

アナグマはアライグマよりも少なく、生息数は数十頭以下だろうと推測しています。これは絶滅寸前とも言える状況です。

動物の生息数はいつまでも安定しているというものではありません。ちょっとしたきっかけで増えることもあれば減ることもあります。東京タヌキ探検隊！が無期限に情報収集をしているのはそのような変化をとらえるためでもあるのです。その成果は早くも得られたと言えそうです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>